

地震工学委員会
平成25年 第4回運営幹事会（通算第158回）議事録

日時：平成25年10月25日（金）17:00～18:10

場所：東京大学生産技術研究所 An407 会議室

出席者：小長井（委員長）、澤田（副委員長）、片岡（幹事長）

池田、小野、清田、鋏田、濱野、原田、福武、目黒（運営幹事）

佐藤（事務局）

配布資料：

- 幹158-01 平成25年度第3回運営幹事会 議事録案
- 幹158-02 平成25年度予算状況
- 幹158-03 小委員会活動補助費の承認通知
- 幹158-04 近年開催した研究会の講演リスト
- 幹158-05 地震被害調査ガイドライン（案） 資料なし
- 幹158-06 小委員会運営要領（変更案）
- 幹158-07 観測地震記録ダウンロードサイトについて
- 幹158-08 平成25 年度土木学会賞候補の募集
- 幹158-09 平成26 年度事業計画・予算案
- 幹158-10 年間スケジュール（案）

議事：

（1） 前回議事録（案）の確認

片岡幹事長より、資料「幹158-01」を用いて議事録の説明があり、原案通り承認された。

- ・澤田副委員長より、高橋小委員長へニュージーランド地震の報告書を取りまとめるように依頼したことが報告された。

（2） 報告・審議事項

① 予算の状況について（佐藤幹事・事務局）

片岡幹事長より、資料「幹158-02」を用いて予算の執行状況が報告された。

- ・ 第2回研究会の講師代は未執行。
- ・ 委員会の予備費の残は現段階で約32万円。

② 小委員会活動補助費の承認通知について（岩田幹事）

片岡幹事長より、資料「幹158-03」を用いて小委員会活動補助費が承認通知されたことが報告された。

- ・ 岩田幹事から1月に各小委員会に残金の確認と追加募集の案内をしていただくことになった。

③ 第3回研究会について（濱野幹事・福武幹事）

濱野幹事・福武幹事より、第3回研究会（平成26年1月7日開催予定）の講師について企画案が示さ

れた。これまでの研究会では地盤系の講師が少ないことから、第1案として地震予知振興会の浅岡先生（元名古屋大）が推薦された。日程が既に決まっていることから、浅岡先生を第一候補とし、先方の都合が悪い場合は地盤系の先生で調整することが了承された。浅岡先生の都合については、福武幹事が調整する。

④ 地震被害調査ガイドラインについて（楯田幹事）

楯田幹事より、高橋小委員長と地震被害調査ガイドラインの修正について検討されている内容が報告された。現ガイドラインの修正課題として、地震前の初動調査体制の構築、個々の初動調査と学会調査団との連携、Factsheetsとの連携、が挙げられた。

- ・ 運営幹事会より、被害調査小委員会にガイドラインの修正やニュージーランド地震の報告書など検討事項が多くあるため、精力的に活動するように指示された。

⑤ 小委員会運営要領の変更について（片岡幹事長）

片岡幹事長より、資料「幹158-06」を用いて、小委員会運営要領の変更案が示された。活動計画の提出として、出版計画書または委託出版計画書を提出する際には、事前に運営幹事会に連絡する、ように変更された。成果の公表についても、小委員会が活動の成果を公表しようとする場合は事前に運営幹事会に連絡すること。その際、成果の公表が意見表明に当たるもの、結果的に地震工学委員会の意見表明と取られる可能性のあるものは、その旨を含めて連絡する、ように変更された。要領の変更は、総会で承認される必要がある。

⑥ 観測地震記録ダウンロードサイトについて（片岡幹事長）

片岡幹事長より、資料「幹158-07」を用いて、地震被害調査小委員会の高橋小委員長にダウンロードサイトの運営を委任し、快諾されたことが報告された。

⑦ 土木学会賞（吉田賞/田中賞/国際貢献賞/功績賞）推薦について（片岡幹事長）

片岡幹事長より、資料「幹158-08」を用いて土木学会賞の推薦についての説明があった。さらに、小長井委員長より、功績賞については委員会委員長の推薦権限があり、締め切りは1月20日であることが説明された。

- ・ 国際奨励賞は50歳以下の日本人、国際協力賞は50歳以下の外国人が対象となる。国際奨励賞に2005年パキスタン北部地震の復興に尽力された元JICA専門家の高橋茂樹氏（現NEXCO東日本）の名前が挙げられた。
- ・ 功績賞以外の賞については、地震工学委員会から推薦を募ることとなった。公募は楯田幹事が担当する。
- ・ 資料「幹158-08」にある表彰制度において、地震工学委員会の表彰制度がない。論文集編集委員会に賞の復活を検討してもらうことになった。

⑧ 平成26年度事業計画について（片岡幹事長）

片岡幹事長より、資料「幹158-09」を用いて、平成26年度事業計画についての説明があった。事業計画は、例年の事業計画に準じて作成している。「ライフラインの地震時相互連関を考慮した都市機能防護戦略に関する小委員会」が委員会を一年継続すること、「性能に基づく橋梁の耐震設計法に関

する小委員会」が何らかの形式で性能に基づく橋梁等の耐震性に関するシンポジウムを継続することを見込んで計画書を作成している。

- ・基本的に原案通りとし、最終確認ののち提出することが確認された。

⑨ 年間スケジュールの確認（片岡幹事長） 幹158-10

片岡幹事長より、資料「幹158-10」を用いて、年間スケジュールの確認がなされた。

次回幹事会は 12月4日16時～ F会議室

⑩その他(1) 100周年事業の委員会の歴史（小長井委員長）

小長井委員長より、100周年事業として委員会活動の歴史について執筆依頼が来ていることが報告された。90周年の時の委員会の歴史の内容に10年間の活動を追加する予定である。

⑪その他(2) 地震工学研究発表会の反省（小野幹事）

小野幹事より、今年度の地震工学研究発表会の報告と論文集編集委員会の審議内容が報告された。

- ・今年度の参加者209人（発表者含む）、昨年度の参加者218人（発表者含む）。2日に短縮したが、参加者数には特に影響していない。
- ・一日目午後の研究小委員会報告の参加者は30人程度で少なかった。二日目は立ち見が出るほど多かった。A会場は広すぎた。
- ・編集委員会では次年度は9月下旬（全国大会が9月上旬に大阪大学で開催）に京都で開催する案が挙げられている。全国大会の場所を考慮すると関西でないほうが良い、次年度は新潟地震の50周年、中越地震の10周年であることから、新潟開催が提案された。9月末開催で新潟または長岡で開催できるように小野幹事、小長井委員長で調整することになった。
- ・編集委員会では、地震工学論文集の論文賞、論文奨励賞の復活（査読論文対象）を検討していることが報告された。

以上（作成：楯田）